

【中区】令和5年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和5年6月8日 15時00分 ～ 16時03分
場 所	中区役所7階 703会議室・704会議室
出席者	<p>【座 長】福島直子議員</p> <p>【議員：2名】伊波俊之助議員、松本研議員</p> <p>【中区：26名】小林英二区長、曾我幸治副区長、秋元政博福祉保健センター長、越川健一福祉保健センター担当部長、黒岩大輔中消防署長、中山昭中土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和5年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行計画について</p> <p>2 その他</p>
発言の 要 旨	<p>議題1 令和5年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行計画について</p> <p>伊波議員：私たち議員も、そして区長を初め、区の職員の皆さんも、もっ と云えば横浜市の職員の皆さんも、中区でいえば中区民の命をしっかり 守っていく、こういったことが最優先にある中での様々な施策になって いると思いますので、まずその点を最初に冒頭述べさせていただきたい と思っています。中区で議員をさせていただいて、毎回、いろいろ学ぶ ことばかりであります。学ぶにつれて、横浜市の縮図だなという風に 感じています。高齢者の独居世帯も一番多いですし、生活保護費も多 くなりますし、横浜市の福祉の先駆的な取り組みができる場所ではないか なと思っています。</p> <p>最初に14ページですが、介護予防のリーフレットを全児童に配布す るとご説明ありました。本当にありがとうございます。本当に大事なこ とだと思っていて、中区に暮らしている子ども達は、おじいちゃん、お ばあちゃんのご両親の田舎で生活している方もいらっしゃいますし、や はりこういうものは中区だけではなくて、地方でも生かせる内容だと思 っています。特にこの介護予防の部分です。全児童に7月に配布をされ るということですが、夏休み前に配布をすると捉えてよろしいです か。</p> <p>区長：夏休みに入る前に配布できるよう準備を進めております。</p>

岩崎高齢・障害支援課長：夏休み前にお配りして、家族の皆さんとこれを通じてコミュニケーションを図ってもらえたら良いと思っております。また秋冬に向けて、10月のアクティブシニアフェスタという介護予防のイベントのご案内とセットにしたチラシの企画にしておりますので、お子さんとご家庭でコミュニケーションを図るツールになれば良いと、試行的にやってみたいと思っております。

伊波議員：ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。おでかけスポットマップについて、今日も配布していただきましてありがとうございます。配布場所は、どちらを予定されているのでしょうか。

稲葉こども家庭支援課長：お子さんが生まれました際の「こんにちは赤ちゃん訪問事業」で全数配らせていただくようにしております。子育て支援拠点であったりとか、保育園、地域のサロンを運営されている主任児童委員さんや民生委員さんにお配りをして、サロン等にいらっしゃる方にお配りしていただくようお願いをしております。

伊波議員：定期健診でも配布をしているのでしょうか。

稲葉こども家庭支援課長：4,000部しか印刷をしておりますので、定期健診を合わせると数が足りなくなります。「こんにちは赤ちゃん訪問事業」はだいたい全数近く訪問しておりますので、そちらで配布をしております。

伊波議員：従前から質問している中で、おむつ替えの場所や、授乳室、これはもう当たり前のようになっていくのではないかと考えているのですけれども、実はお母さんたちが情報としてすごく欲しい部分だと思っています。私自身も、子どものおむつを取り替える時に街で嫌な思いをしていました。そうした経験もある中で、そこを追いかけているのですけれども、これはハマハグのアプリをダウンロードすることによって、検索ができるということなのですが、アプリの評価があんまり良くないみたいで、その辺はどういった改善とか、取り組まれていらっしゃるのでしょうか。

稲葉こども家庭支援課長：ハマハグ事業はこども青少年局が実施をしている事業として、子育て支援に協力してくださるお店や施設等をお願いをしているのですけれども、少しずつ上がってきてはいるみたいなのですが、まだまだ不十分なところがあるかと思っておりますので、こども青少年局にその旨をお伝えしたいと思っております。

伊波議員：こども青少年局と連携をしないといけないということですか。

が、先ほどご説明にあったように、区庁舎内でプロジェクトチームを立ち上げて、子育て中の職員も入って様々進めていくというようなことでしたが、ぜひ子育て中の職員の声、子育てし終わったからこそアドバイスができるという部分も当然あるのだと思うのですが、現状子育てをしている職員の方々の声がすごく大事だと思っています。時代とともに子育ての仕方ももっと難しくなっていることもありますので、そうした声も、先ほどご答弁いただいた課長だけに任せるのではなくて、区としてこども青少年局へ要望していただきたいと思います。その辺を一つ要望としてお願いします。あとは 18 ページのなかくっ子はぐくみ事業ですが、これも子どもたちが大人になった時に、子どもの時に中区で過ごしてきたことを自慢できるものになると思っていますが、例えば(2)の龍舞ですが、中区の特徴として横浜中華学院と横浜山手中華学校があります。ご説明の中で、横浜中華学院というご説明でしたが、例えば 1 年おきに横浜中華学院と横浜山手中華学校の皆さんにご協力いただくとか。そうしたこともご検討いただければと思いますがいかがでしょう。

区長：龍舞につきましては、横浜中華学院の講師の方に、去年中区の保育士を対象に、この会場で龍舞教室をやっていただきました。私も一緒に参加したのですが、ちょうど子ども用の小さい龍舞が手に入ったということで、その龍舞で教室をやりまして、その時に横浜中華学院の方にお世話になりました。その流れで、今年度はということなのですが、またいろいろ考えて進めていきたいと思っています。

伊波議員：中区って「イイネ！」フォトコンテスト、夏休み前に募集期間を設定するというので、子どもたちってすごい視点で写真を撮るのですよね。大人目線ではない子どもの目線から見える写真で、すごいなという作品もありますので。ぜひ、いろいろな方面に中区はこういうことをやっている、広めていただきたいなと思っています。中区役所だけではなくて横浜市役所だとか、それこそ連合町内会長賞でも何でもいいですから、そうした賞を付けてあげて、土木事務所や山手のああいっただころ、看板に貼ったりとか。自分の子どもの作品がそういうところに貼りだされていたら必ず親は見に行きますから。ぜひ、中区ならではの取り組みだと思っていますので、よろしくをお願いします。

それと、関東学院大学が開校をしておりますけれども、今、関東学院大学との連携というのはどういった状況なのでしょうか。

区長：関東学院大学との連携ですが、今、具体的に取り組んでいるのは地域振興課を中心といたしまして、関東学院の学生の方に地域に入っただいて、地域の方といろいろな話し合いをしたり一緒にイベントをしたりというようなことで、若い方の考え方を地域に知っていただくことで、さらに自治会町内会の加入率もアップといったことに繋げていけないかというふうに工夫しております。あと、調整中ではあるのですが、関東学院大学の方から話があり、法学部の公務員志望の学生がいらっしゃいますので、そうした方を中心に中区役所の中で職業体験みたいなことができないかということで、それはお受けするというので、間違いなければ、大学の中で既に募集もしていると聞いています。8月の頭ぐらいに実施するようなことになっています。

木村地域振興課長：関東学院大学との繋がりについて、毎年実施される第4南部地区のふれあいウォークが6月11日に実施されるのですが、このイベントを皮切りに、関東学院大学法学部の関内キャンパスの学生さんに実際にご参加をいただくということで、地元の地区連と、元気づくり協議会の方にもお話をさせていただいています。いろいろなイベントにご参加をいただくということで、大学法学部の教授に窓口をさせていただいています。また、以前から第4南部エリアの活動に関わっているNPOにも協力をいただきながら、学生自身がいろいろなイベントに顔を出して実際に地域に関わったことで、若者たちがどう感じたのか、その感じたことを逆に地域の方にバックしていただいて、地域が何を期待しているのか、そのギャップは何なのか、といったことをやりとりさせていただきながら、WIN-WINの関係が築けるといいなど、これを続けていきたいなという思いで始めさせていただいております。

伊波議員：これも中区ならではだと思っております。中区の関内キャンパスということで、学生たちは凄いい感性を持っていると思いますので、行政にも何かしらのヒントがあると思います。よろしくお願ひします。それと、26ページです。新規事業、支援事業の補助金の部分ですが、124万円という予算額は、どういった形でその割り振りを考えていらっしゃるのでしょうか。

木村地域支援課長：みんなが繋がる地域づくり事業は、先ほど区長から冒頭にご説明させていただきましたとおり、コロナ禍で止まってしまった事業が地域にたくさんあります。地域の様々な事業の中で、市民局の補助金事業で進めてきたものについては、補助期間の5年間にコロナで止

まった3年間が含まれてしまっているという地域にあります。良い取り組みをしたいのになかなか動けないなかで、コロナ禍を脱して、これからスタートするというところの起爆剤として何かできないかということで作らせていただいた補助金です。すでにこれは区連会を通じて、地域の方にご案内をさせていただきまして、今年度はもう締め切りをさせていただきました。これから内部の審査を経て決定をさせていただきますが、すでに予算上限を超えるご申請をいただいております。連合町内会や元気づくり協議会の他にも、私どもも知らない団体もご申請いただいております。目を見張るような取組も見受けられます。今年度まだ始まったばかりですが、すでに予算上限まで達しているという状況でございます。

伊波議員：例えば町内会と、連合町内会とありますが、連合町内会であれば自治会、町内会が複数あるので、その場合、連合町内会であれば補助金を少し多めにという捉え方なのでしょうか。

木村地域振興課長：ご申請の単位としましては、町内会に絡んでいれば良いという大きなくくりにしています。ご申請は、例えば、普段は連合町内会とお付き合いのない、けどすごく力のあることをやっていたりする団体さんがあって、ぜひ町内会と一緒にこういうことをやりたいという申請もあります。申請団体の相手が町内会と絡んでいればお受けできるというスキームにさせていただいています。また、すでに締め切りをさせていただいたのですが、124万円の予算の中に、(2)で地域運営力向上サポート事業があり、こちらは随時受け付けさせていただいております。やはりエリアによって、すごく勉強熱心でいろいろ知識を得たいという地域もあります。現時点ですでに数団体から申請したいということでお話は頂戴しています。こちらはまだこれからでもお受けできます。

伊波議員：ハローよこはまについて意見が来ていますので伝えさせていただきます。ハローよこはまは18区ある中で唯一中区だけ、区民まつりよりハローよこはまの名前が浸透しているという場所だと思っています。横浜唯一だなと思っているのですが、中区の人が来ていないんじゃないかと思います。昔は根岸森林公園とかで開催されていたのがいつの頃か、こちらの方でやって、当然来街者数も多くなってくるわけですが、中区だからこそ観光客だって来るよと、そうした人も巻き込んでやるのがハローよこはまだよという言い方をしていますけれども、ぜひ

とも中区の様々な団体が、もっともっと末端まで、参加ができるそういったお祭りにしていただきたいなと思います。そうしたフォローアップを区役所にはお願いしたいと、最後にその要望だけして終わります。よろしくをお願いします。

松本議員：まず減災行動啓発事業ですが、共同住宅に特化した啓発ですが、これは共同住宅といってもかなり規模に違いがあると思うのですが、具体的に管理組合さんを巻き込んだ減災の、例えば、訓練ですとか講話、備品ですとか、住んでいる方々と一緒になった防災の意識の啓蒙というのがどの程度進んでいるのでしょうか。

黒部総務課長：マンション防災につきましては、具体的に管理組合とか、あとお住まいの方からこういう防災をやってみたいというお話などもいただきまして、去年は9つのマンションで、訓練や講話などもさせてもらいました。今年に入ってすでに2件、やらせていただいております。相談ベースでは、それ以外にもございます。ただ、マンション、管理組合だけでも570ありますので、そこに対してはやはり個別に何らかの形で、マンション防災の重要性を促すための、ポスティング、個別にご案内をさせていただきながら、管理組合があるところについてはそういったアクションをお願いしつつ、または消防と一緒に防火の訓練だとか、そういった機会に合わせて、防災のためにこういった備蓄が必要だよというものも紹介させていただこうと思っています。また、管理組合がないようなマンションも多々あります。そういったところに対しましては、9月に広報よこはまでマンション防災記事を組みますので、そうしたところで面的にも啓発をしてまいりたいと思っています。

松本議員：中区は大規模なマンションも含めて、世帯の少ないマンション、外国人ばかり住んでらっしゃる場所もあるので、防災に関して意識を高めてもらうことが難しい地域だとは思いますが、逆に住んだからこそ、災害のときに危険が非常に高まると思っていますので、是非これからもご尽力をいただきたいのと合わせて、マンションっていうのは、地権者と賃貸で入っている方と違うので、賃貸で入っていらっしゃる方というのは、その辺の意識が非常に希薄なのかなという気がしています。それが外国の方ですと尚更かと思しますので、例えばその意識の啓発、例えば防災のときの行動というものが、多言語で皆様にご理解いただけるような広報ですとか、ぜひこの動きが浸透していけるように頑張っていっていただきたい。今でも500か所以上あると思うと、それだけでもかな

りですし、それにプラス管理組合の小さなところも含めると、もっとあると思いますので、是非ご協力いただければと思います。

先ほど伊波先生が関東学院大学との関わりについて確認をさせていただいて、学生の皆さんに地域との関わりが良いと思っていただけるといいなということと合わせて、やはり関東学院大学ということで、就職場所を探さなくてはいけない。そして、関東学院大学の工学部は建築課も含めてかなりレベルが高い。今、建築に携わる方が少なくなってきたということで、例えば中区にある建築事業者さんと、どんな技術が企業から求められているのかというディスカッションを、生徒さんを含めてやることによって、ぜひ中区の企業に勤めてみたいですか、いろいろな気持ちがまた新たに芽生えてくるのかなと思います。地域との関わりも大切だけれども、個々に様々な企業、産業にそういった学生の皆さんが上手く関係を持っていたらいいような、そんなものもぜひ構築をしていただければと思っています。これは関東学院大学だけでなく、神奈川大学、この会議は一応中区のことだけれど、中区から外れても、せっかく神奈川大学がみなとみらいに来てくれたという経緯もあるので、是非関東学院大学に特化しなくても、横浜市内の大学と企業との連携というのを幅広く考えていっていただきたいなと思っています。

区長：今のところは個別具体的に動いていることは無いのですが、幸いこの辺りは再開発が進んでおまして、旧市庁舎街区を初めとしまして、うちの方で開港記念会館も今、リニューアルしております。そうした関係で、建築関係あるいは不動産関係ですね、そういうこととお話をしたりする機会もあります。あと再開発の関係だと都市整備局都心再生課が絡んできますので、そうしたところを通じて何かうまく企業と学生の方々を結びつけられるのかどうか、そこは検討させていただきたいと思います。

松本議員：地域の活力を取り戻すという意味で、コロナがようやく落ち着きを見せつつある中で、これから各地域でお祭りが次々に行われていくと思うのだけれど、まだまだ地域の中では温度差があって、まだコロナが心配だねということいろいろな行事を縮小したりというようなところもあります。今までとは違って、だんだんこの程度のことはやって良いよというのを、何かマニュアルではないのだけれども、こういうことに気を遣えば、安全に催しができますよというような指針を是非、各自治会の方に出していただきたいと思うのだけれど、今、自治会の方から

何かこう、催しに対して、問合せみたいなものはありますか。

区長：私もあの地区の連合ですとか町内会の会合ですとか、そういうところにお邪魔することもあります。ご指摘のように、やはり未だにアクリル板は絶対取らないで欲しい、あるいはマスクはもう当然するというようなところで、自治会の会議そのものがそういう状況の中で行われているところも、実際に行かせていただいております。5月8日に5類になった時にもこの区役所の中でも、アクリル板をどうするか、職員のマスクをどうするかという議論を随分したのですけれども、そういう状況が続いておりますので、地域へのお示しの仕方がどういうのがいいのかどうなのかというのは、検討させていただきたいと思います。

松本議員：ちょっと二の足を踏んでいるようなところがあるので、いいアイデアを提供していただければと思います。そして同じく地域の活力ということで、大岡川の桜祭りがコロナで行うことができなかった。実行委員会も無くなっているという中で、今年あたりは各町内会単位の中で、小規模ながら桜を楽しみましょうということで、徐々に雰囲気盛り上がってきました。でも町内の中ではやはりまだ怖いという町内もあるので、来年の3月の桜の時期に合わせて、大岡川の桜まつりをどうしていくのかということ、ぜひ地域の方々と情報交換をして良い方に来るように、区からも協力をいただければと思っています。その辺、上手く連携していただければと思います。

区長：お祭り・イベントをやっていくにあたっては、執行体制をどう確保していくのかということが大変大きな問題だと思います。地域のキーパーソンになる方々がいらっしゃると思いますので、お話をさせていただいたり、あの界限につきましては、都市整備局都心再生課も大変大きく関与しておりまして、過去の歴史にすごく詳しい職員がいたりしますので、そういった職員の知見も借りながら、あるいは南区役所の話も聞きながら、対応していきたいと思っています。

松本議員：こういう催しってというのは、いろいろな状況で休んでしまうと復活するのが大変なのですよね。知った方々がこの4年の間でもう亡くなられた方もいらっしゃるし、高齢化して今まで最前線でリーダーシップを発揮していた方が、もう若い人に譲りたいなという方もいらっしゃるので、だんだん意識が薄れてくる。せっかくあれだけ長い間盛り上げてきたイベントがここで無くなってしまうのは非常に残念ですので、桜を通じてあのあたりの環境浄化という意味合いからスタートしていま

すので、ぜひこれからも素晴らしい行事として存続できるよう協力をお願いできればと思います。

福島議員：7ページのヨコハマ3R夢プラン推進事業ですが、重点事業には入っていなかったですけれども、中区長が力を入れ始めていらっしゃる中区政100周年に向けまして、街の美化にぜひ力を入れていってはいかがかと考えております。ここには中華街の例が代表として書かれていますけれども、伊勢佐木町など歴史のある繁華街で、取り組みを地元の方が一生懸命やっただけでいるのですけれども、多文化ということもありまして、若干、美的にどうなのか衛生的にどうなのか、あるいはネズミなどの害獣など、健康もすごく気になるというふうな声をいただいています。100周年まで4年間ありますけれども、例えば重点地域を決めるとか、重点ポイントを決めて、みんなで一斉にきれいにするような取り組みで、みんなが変わったなと実感できるような取り組みをやっていってはどうかなあというふうに思っております。お客様をお招きして繁栄していくのが中区であると思いますので、住宅地として地域住民が積極的に取り組んでいるエリアもありますけれども、やはりこの繁華街についてはいろいろな方が出入りされているので、意思が統一できない部分もあるかと思えます。何かそういった運動を展開し始めてはどうかというふうに思っております。資源循環局の方針も今年大きな見直しがあると聞いているのですけれども、それとも合わせて、中区版のそうした取り組みを行ってはどうかと思うので、ぜひご検討いただきたいと思っております。

区長：ネズミの関係では、長者町にやはりネズミが出て、ゴミの集積場、集合住宅のゴミの出し方とか、施設がネズミが入りやすい構造になっているとか、そういうところがありまして、私も何回か現場に行って状況確認して参りました。やっぱりゴミの出し方に問題があるところもあって、生活衛生課の方でもオーナーさんと話したりとか、地道にやらせていただいています。そういう問題があることは先生のご指摘の通りだと思いますので、特に100周年に向けての一つの象徴的な話になりますので、来年以降になるのかもしれませんが実行組織もおそらく立ち上がっていくと思いますので、街の美化に関するところをそうした中に位置づけていけるような形で、またその中で話をさせていただければと思います。

松本資源化推進担当課長：お話がありました通り、資源循環局で新たな一

般廃棄物処理基本計画の見直しを進めているところでございます。まだ現段階でお示しすることはできませんが、近いうちに常任委員会の中でもご報告するとともに、今後パブリックコメント等を行っていく予定でございませう。その中で、中期計画の関係でも施策 19 で持続可能な資源循環の推進というふうに取り組みがございませうので、街の美化も関係しております。資源化推進担当の 3 R 夢プランの事業の中でも、清掃活動の支援ということで、積極的に支援しているところでございませう。中区は幸いなことに区民あるいは事業者の団体の皆さんあるいは自治会町内会の皆さん、個人の皆さんも含めて、清掃活動に尽力されている方が多くいらっしゃるにせうので、先ほど区長からもございませう通り、100 周年を迎えるにあたっては、まずその前に私どもの行っている事業の中で、清掃活動の支援を通じてまちの美化の機運を高めていけたらと考えております。

福島議員：ハローよこはまの件なのですけれども、実行委員会を立ち上げていただきまして、報告書も先般、いただいたところでありますけれども、このハローよこはまについて、100 周年という節目で見直していく必要があるのかなと思っているところでございませう。連合町内会長会、連絡協議会長の取り組みで、事業者さんのご協力を強力にここ 10 年程推進してくださって、大変力強い中区らしい形に作ってきていただいたなということで、感謝をしているわけですけれども、一方で、連合町内会ぐらいが単位のイベントですと、地域住民同士、顔もなんとなく見たことあって、こんな方がいらっしゃるのだとかこんな特技を持っているにせうってすごいなとかですね、発表を見ますと、非常に手作り感もあり、人間関係が新たに作れそうな期待感を持ったりですね、程よい距離感のイベントになるなというふうな実感もありまして、中区はもう本当に大規模に育てていただいたので、お話がありましたように、やや区民の顔が見えないというか、代表選手型にどうしてもなってしまうにせうのです。またその規模が大きくなりましたので、運営はもうそれはそれは大変なご苦労があると思ひますし、おそらく区役所の職員が、ハローよこはまが近づいてくると、もう大変なことでは無いかと思ひております。資金の面でもかなり大きな負担もあるのだらうというふうに思ひます。ここでは 292 万 5000 円という予算になっているわけですが、前回は「たからもの基金」で運用するなどの事態に陥りましたけれども、そういうことも含めて予算のあり方、内容についての反響ですかね、区

民の受けとめと言ったことを、やはりこの4年間でですね、細かく分析をしてみてもう一度見直してみるなどという取り組みが必要なのではないかなと、そんなふうにも感じたところでございます。各区経験をされた職員の方も大勢いらっしゃると思いますので、この区ではこんな感じでやっていますよとか、こういう取組が非常に好評ですよとか。そういういろんな比較検討もして、新たらしいハローよこはまとか新しい中区民まつりの流れも作っていく必要があるのではないかなと思っ
ているのですが、いかがでしょうか。

区長：実は昨年11月13日のハローよこはまは先生方もご承知のように4年ぶりで、3年ちょっとできなかったということがございまして、その間に我々も、職員もだいぶ変わってですね、去年は本当に暗中模索といいますか、どういう形で区民まつりを再開していくのかということがコロナ禍も含めてですね、職員の方でいろいろと頭を痛めたところがございます。ですがおかげ様でああいう形で無事に開催できたところですが、やはりそのあとに私の方にも、地域の方から、もう少し地域の方を前面に出して、地域の方が参加をしているということが明らかにわかるような形でやるべきなのではないのかと、やはり少し事業者の方に傾いているのではないかというようなご意見もいくつかいただいております。この経緯も含めて一つの大きなきっかけになったと思いますので、区民の皆様100周年ということだと思いますので、ご指摘いただいたことをもう一度我々肝に銘じて、今年からどういうところを具体的に変えていけるのかも含めて、検討させていただきたいと思っております。

福島議員：約15万人いる区民の皆さんを通して、どういうふうにやっていくのが一番民主的で皆が喜ぶかはよく分かりませんが、とても難しいことだと思うのですが、現在の実行委員会のあり形がいいのかということも含めて、区民発議の区民まつりになったら良いという思いはあります。言うのは簡単ですが、本当にじゃあ何が良いのか、本当は区民のお祭りじゃないのかということ、おんぶにだっこでは本当はいけないんだろうなという気はしています。そこは反省しつつ、いい形になるようにぜひお力をお借りしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

	<p>議題2 その他</p> <p>福島議員：次に議題の2のその他ですが、皆様から何か御発言はございますか。特にないようでございますので、本日の議題は全て終了いたします。</p>
備 考	